

# 中河内地区（天草市）

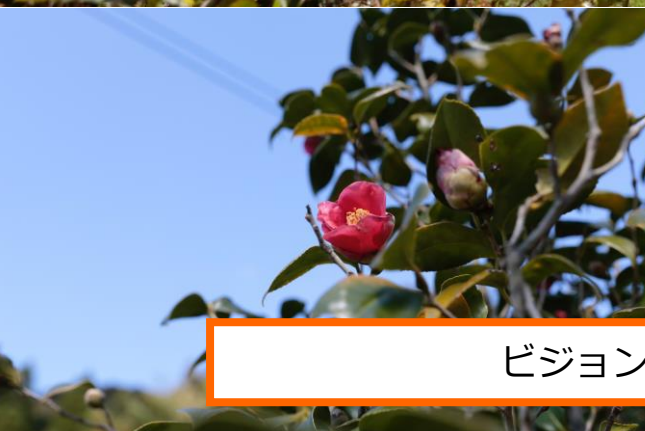
## 地域をともす 未来につなぐ 小さなひかり ～水田裏作を活かした持続可能な農業～

キーワード

効率化

ブランド化

露地野菜



ビジョン策定年度：令和元年度 目標年度：令和5年度

# 1. 課題と将来像・ビジョンの内容

## 地区の「課題と将来像」

### 【地区の課題】

- ・水田利用が米の単作で、裏作がほとんどない。
- ・個人単位での機械所有でコストが高くなっている。
- ・米以外の収益の柱となる作物がない。
- ・イノシシなど鳥獣の被害が多いが、対策を行う農業者が減ってきており、農作放棄地が増加する恐れがある。

### 【地区の目指す姿】 = ビジョン

- (1) 機械の共同利用、大規模な機械化などで営農コストを下げる取り組みを行う。
- (2) 特産品の開発・販売などを通じて、地域の活性化や、地域ブランドづくりを目指す。
- (3) 耕作放棄地の解消を行い、農地保全を図る。

### 【成果目標】

- ・高単価作物として、かぼちゃを200a、オクラ10aを新規作付けする。
- ・収穫体験を1回以上実施する。
- ・スマート農業を目指した共同利用機械の整備を行う。

## ビジョンの内容

### (1) 機械の共同利用、大規模な機械化などで営農コストを下げる取り組みを行う。

- ①暗渠排水の整備を行い、水田の乾田化を図ることで、幅広い作物栽培が可能な土地へ。
- ②高単価作物であるかぼちゃ200a、オクラ10aを新規導入する。
- ③共同利用機械の整備、ドローンの導入を行う。

### (2) 特産品の開発・販売などを通じて地域の活性化や、地域ブランドづくりを目指す。

- ①以前より植樹が行われてきた樁を利用した新商品の開発・販売。
- ②地域全体の農作物の品質を向上させ、ブランド化を図る。

### (3) 耕作放棄地の解消を行い、農地保全を図る。

- ①圃場整備などにより改善された農地の有効活用・保全。
- ②イノシシ対策となる電柵の整備。
- ②地域にマッチした付加価値の高い作物を導入する。

## 整備・導入内容

令和3年度

かぼちゃ、オクラの種苗代等  
フレールモア、サブソイラ、田植え機

## 2. 中河内地区の現状

### 【農業者に関する状況】

- ・総戸数：72戸
- ・総人口：158人
- ・農家戸数：56戸
- ・農業者数：56人
- ・担い手数：20人
- ・65歳以上：23人

### 【農地に関する状況】

- (1) 面積区分
  - ・水田：23.76ha
- (2) 筆数
  - ・水田：298筆
- (3) 作付区分
  - ・水稲
- (4) 耕作放棄地：あり

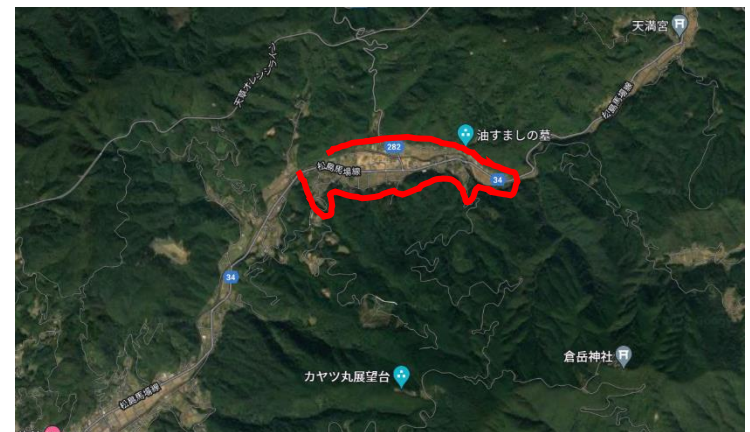
### 【基盤整備に関する状況】

- (1) 耕作道路：幅員が2.0m以上
- (2) 排水：土水路
- (3) 用水：水路から直接取水

### ■地区の現状

- ・地区内の人口割合は、高齢化率が6割を超え、**農業従事者は65歳以上が4割を占める。**
- ・**半数の農家が作業を委託**するなど、自ら営農ができていない。
- ・ほとんどの担い手が**水稲単作の作付け**で、**農地の維持だけ**を行っている。
- ・基盤整備が行われていない地域があり、**大規模な機械化**ができない。

農地集積加速化事業  
地域営農・農地集積計  
画より



## (1) ビジョン策定に至ったきっかけ

### 平成12年から中山間事業へ参加し問題意識を共有していた

以前から中河内地区では農業従事者の高齢化や担い手不足などに対する問題意識が高く、平成12年から行われている中山間地域等直接支払制度に第一期から参加していたため、現状や課題など既に地区内で共有できていた。「もっと農業利益をあげられるような地域に」と効率化、収益化という方針を固め、それまで個人で対応していた問題に地区全体で取り組めるようビジョンを策定した。



役員会の様子。コロナ禍で集まる機会も減った

## (2) ビジョン策定メンバーと手法

【メンバー】

役員13名

【手法】

平成12年から中山間地域等直接支払制度へ参加しており、地区全体の問題点や方針はある程度まとまっていた。

## (3) ビジョン策定の流れ

### 先進地への視察

ビジョン策定のため、天草市有明町農事組合法人「夢有ランド」、八代市坂本町農事組合法人「鶴喰なの花村」などへ視察研修を行った。

### 目標の設定

視察や役員会議を重ね、農業の機械化、法人化を目標にした。地域住民へのヒアリングも重ねつつ、農業ビジョンの具体的な検討を行った。

### 最終調整

役員会議にてビジョンを策定。個別所有により過剰投資となっていた農業機械の利用体系見直しや、基盤整備、ドローンの導入など効率化を中心とした内容となった。

### 合意形成

自己経営が可能な農家などからは反対意見も出たが、地域の今後を見据えた十分な説明を行い、最終的に合意。

## ■ビジョン検討の流れ

回	実施日	話し合いの具体的内容	参加人数
1	令和1.8.28	・事業概要	12人
2	令和1.10.2	・今後のスケジュールの検討	11人
3	令和1.11.13	・視察研修の検討及び実施に向けて	12人
4	令和1.12.1	・視察研修「天草市有明町 夢有ランド」	13人
5	令和1.12.15	・視察研修「八代市坂本町 鶴喰なの花村」	16人
6	令和2.1.22	・農業ビジョンの検討	2人
7	令和2.1.27	・農業ビジョンの検討	14人

### (4) ターニングポイント

夢有ランド、鶴喰なの花村の視察研修で農業用ドローンなどのスマート農業技術を実際に見たことで、地区での活用への具体的なイメージが共有できた。

### (5) 重点ポイント

長年の話し合いの蓄積から、**効率化**という明確な目標を設定

平成12年から課題について話し合いを重ねており、効率化という明確な目標が定まっていた。

重ねて住民へのヒアリングなども行い、機械共同利用組合の設立など地域課題に則した具体的な計画を掲げたことで、地区全体の合意形成がスムーズに行えた。



夢有ランドで農業用ドローンの活用を学ぶ



鶴喰なの花村でハウス栽培を視察

## (1) 機械の共同利用、大規模な機械化などで営農コストを下げる取り組みを行う

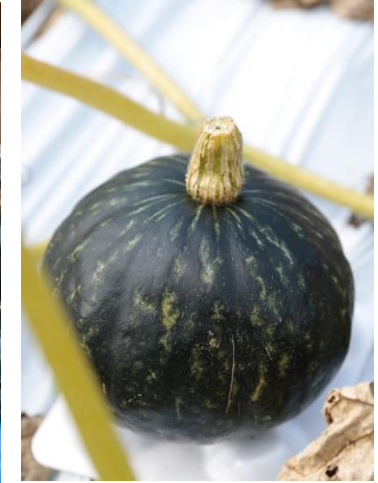
## ① 暗渠排水の整備を行い、水田の乾田化を図る

ことで、幅広い作物栽培が可能な土地へ。

地域住民へのヒアリングや、現状を再整理した結果、今は乾田化を進める段階にないとして、**暗渠排水の整備は中止**した。

## ② 高単価作物であるかぼちゃ200a、

オクラ10aを新規導入する。



## 作付面積は目標の10%ほど

水稲の裏作としてかぼちゃの作付けを実施した。

ひとつおり収穫まで行ったものの、作付面積は目標の10%ほどに留まった。要因としては、人力での受粉作業や、かぼちゃを裏返ししたり配置を替えたりしてまんべんなく日光にあてるなど、**一定の品質維持のために想像以上に手間暇が掛かる**ことがわかり、高齢化や担い手不足が進む地区での栽培はあまり理想的とは言えない。

今後の作付け品目については、ブロッコリーやもち麦などが候補作物に上がっており、農業者の高齢化も考慮した持続可能な農業に向け、さらなる検討を行う予定である。



水田の転作として新規導入されたかぼちゃ畑

## (1) 機械の共同利用、大規模な機械化などで営農コストを下げる取り組みを行う

## ③共同利用機械の整備、ドローンの導入を行う。

大幅な**効率化**に成功、今後は利用組合設立

米の乾燥機、畝立て機、除草機、農業用ドローンを導入した。試験段階ではあるが、ドローンの活用により、数時間かかっていた農作業が数分で完了するなど、**大幅な効率化と労働負担の軽減に成功**している。

ドローンの免許を3名が取得しており、当面はこの3名での運用を行っていく計画。住民からの反応も好評で、今後は「**機械利用組合**」を設立し、**より利用しやすい仕組みづくりを目指す**。

歩行型除草機を導入予定であったが、より効率的な除草を可能とするトラクター取付型の中耕除草管理機「フレールモア」を令和3年度導入。耕作放棄地を未然に防ぐことが出来るようになる。



ドローンを活用し、作業時間は驚くほど短縮された。農家からも好評の声を頂いている



中山間直払で導入したトラクターは今後集落の主役を担う



## (2) 特産品の開発・販売などを通じ地域の活性化や、ブランド化を目指す

①以前より植樹が行われてきた椿を利用した  
新商品の開発・販売。

## 瓶詰めの椿油を試作、今後はストーリー性のある商品に

中河内地区では20年ほど前から、地区の青年部「創和会（そうわかい）」が椿の植樹を続けてきた。現在では1,000本ほどの椿が植栽され、川沿いに椿が並ぶ美しい景観をつくっている。令和3年度は商品化に十分な椿油の収穫量が確保できたため、市内の加工業者に委託して、瓶詰めに試作した。

中河内地区には、漫画家・水木しげる氏の作品にも登場する「あぶらすましどん」という妖怪の伝説がある。「あぶらすましどん」の名前の由来は「（椿）油を絞る人」。地域住民に愛される「あぶらすましどん」と特産品である椿を絡め、ストーリー性のある椿油を原料に商品化を目指す。



試作品の椿油。「すめる」は方言で「絞る」という意味

## ②地域全体の農作物の品質を向上させ、ブランド化を図る。

ふるさと納税の返礼品に選ばれるよう  
ブランド化して売り出し合い

今後の予定として、未熟米や傷のある米を取り出し、地域全体の米の品質向上を図り、ブランド米として売り出すために色彩選別機を導入予定。上述の椿油も含め、地域の産物のブランディングを行い、ふるさと納税の返礼品に選ばれるような高品質な特産品づくりを進めていく。





### (3) 耕作放棄地の解消を行い、農地保全を図る

#### ①圃場整備などにより改善された農地の有効活用・保全。

##### 外部事業者への農地貸出や椿の植樹を検討

農地を探している地区外の農家への農地の提供や、作付け・収穫を地区外業者と連携（委託）して行うなど、有効利用の方法を模索中。また、現在耕作放棄地となっている畑へ椿を植樹することで、椿油の生産量を増やすとともに、耕作放棄地を活用することも話に上がっている。新規作付け品目の更なる協議・検討を行う。



#### ②イノシシ対策となる電柵の整備。

イノシシ対策の研修を行い、地区全体に電柵を設置した。



集落の道路沿いや川沿いにある椿並木

### 振り返り・成果・今後に向けて

#### (1) 振り返り（ビジョン策定と取り組みの総括）

【取り組みが継続するためのポイント①  
～ビジョン策定時】

**視察や話し合いを重ね、地区に合った  
明確なビジョンを策定する**

【取り組みが継続するためのポイント②  
～取り組みの総括】

**現状や地区の意見も取り入れつつ、  
柔軟に対応すること**

#### (2) 成果

##### 【成果目標】

- ・高単価作物として、かぼちゃを200a、オクラ10aを新規作付けする。
- ・収穫体験を1回以上実施する。
- ・スマート農業を目指した共同利用機械の整備を行う。

##### 【結果】

- ・かぼちゃの作付面積は10%ほど。他の新規作物の導入も検討していく。
- ・コロナ禍により収穫体験は未実施に終わった。
- ・ドローンの導入で効率化、負担軽減できた。今後は「機械利用組合」設立、作業受託の仕組みを整え、さらなる機械の共同利用化を進める。

##### 【メンバーの声】

##### 事業に取り組むことで集落全体が前向きに

地区の農地を自分たちの手で守っていこう、という意識が地区全体で強くなった。高齢化や担い手不足も進む中、「耕作できなくなった農地を管理してくれるという安心感がある」という声も聞く。集落全体が前向きになった。

#### (3) 今後に向けて

##### 5年以内の法人化を目指す

法人化については、経営面の不安が残っている。機械化を進めると同時に、作付け品目の検討、椿油やブランド米など地域ブランドについて協議・検討する。また、経営面の強化などと共に、周辺の集落等の話し合いを行っていく。